

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.7.15 No.110 連絡先 FAX 042-555-1911



オーストラリア空軍機の横田基地使用の情報があつたが…

6月23日午後5時、国（北関東防衛局）から福生市に「米空軍の実施する演習（レッド・フラッグ・アラスカ）に参加するオーストラリア空軍機が横田飛行場を経由する情報を得た」との情報があり、議員にお知らせがありました。

6月27日（月）12時から13時頃、FA-18（6機）、DC-10（1機）、C-130（1機）が着陸。28日（火）6時頃には、FA-18（3機）、DC-10（1機）が離陸し、17時から18時頃、DC-



オーストラリア空軍 FA-18 (HP より)

10（1機）着陸。6月30日（木）6時から7時頃、FA-18（3機）、DC-10（1機）、C-130（1機）が離陸する、という内容です。DC-10ではなくKC-10ではないかと問い合わせた人、離着陸の時間に写真を撮りに行った人などいましたが、28日防衛省の方から、「横田使用はなくなった」との連絡が入ったそうです。理由その他についてはコメントはなかったそうです。

新防衛大綱は、米国だけでなく韓国及びオーストラリアとも協力を強化するとしています。

航空自衛隊那覇基地所属のF15戦闘機が訓練中 海上で墜落事故

7月5日、航空自衛隊那覇基地所属のF15戦闘機が訓練中に、海上に墜落しました。

那覇基地といえば、私たちが利用する那覇空港と滑走路を共用していて、戦闘機と民間航空機が交互に離着陸するのを見たことがあります。市民からは、「民間機と同じ場所から危険な戦闘機が飛ぶのはおかしい」、「那覇空港は民間専用にしよう」と抗議の声があがっています。

昨年5月28日の日米共同発表で、「二国間及び単独の訓練を含め、米軍の活動の沖縄県外への移転を拡充することを決意した」としています。負担軽減を理由にしていますが、実際には本土への訓練の拡大になるだけです。危険な戦闘機訓練は、止めさせるしかありません。

西之表市が馬毛島の米軍施設等移転に関する問題について 市民にお知らせ

西之表市の馬毛島については、島のほとんどを民間の会社等が所有しています。

6月21日、日米両政府が日米安全保障協議委員会（2プラス2）を開催し、共同文書を発表しましたが、その中で、在日米軍再編の一環として、「馬毛島が米軍の空母艦載機離発着訓練の恒久的な施設として使用されることになる」と、明記されました。

地元熊毛1市3町は、平成19年4月に「米軍空母艦載機離着陸訓練施設馬毛島問題対策協議会（現：米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会）」を設置し、熊毛1市3町の総意として、首長をはじめ、議会も移転反対を決議し、明確な意思表示を行ってきました。

また、鹿児島県議会においても、全会一致で「地元の意向に反した基地建設に反対する」との意見書を可決しており、6月1日に行った移転反対の要請活動時に、防衛省側は、当協議会に対して「地元の意見をしっかりと伺いながら、検討を進めたい」としていたにもかかわらず、地元の意見を無視した今回の日米共同文書内容は、大変遺憾であり、絶対に許すことができません。

種子島につきましては、農林水産業中心の島であり、屋久島は世界自然遺産に登録された観光業が盛んな島です。米軍訓練施設の移転により、農林水産業や観光への影響は甚大であるとともに、騒音被害や不慮の事故等も懸念されることから、種子島・屋久島1市3町の首長及び議会は移転について断固反対の姿勢で、国や県等に対して、反対の要請活動を行っています。

▼「閉鎖」して、監視・管理…なぜ、原発は廃炉や解体ができないのか。それは、原発は水と蒸気で運転されているものなので、運転を止めてそのままに放置しておく、すぐサビが来てボロボロになって、穴が開いて放射能が漏れてくるから。原発は核燃料を入れて一回でも運転すると、放射能だらけになり、止めたままにも、廃炉、解体することもできないものになる。

先進各国で、閉鎖した原発は数多くある。廃炉、解体ができないので、みんな「閉鎖」。閉鎖とは発電を止めて、核燃料を取り出しておくことだが、ここからが大変だ。放射能まみれになってしまった原発は、発電している時と同じように、水を入れて動かし続けなければならない。水の圧力で配管が薄くなったり、部品の具合が悪くなったりするから、定検もして補修もし、放射能が外に漏れださないようにしなければならない。放射能が無くなるまで、発電しているときと同じように監視し、管理をし続けなければならないのだ。

これから先、必ずやってくる原発の閉鎖、これは本当に大変深刻な問題。近い将来、閉鎖された原発が日本国中いたるところに出現する。これは不安というより不気味だ。ゾーとする。

▼どうしようもない放射性廃棄物…原発を運転すると必ず出る核のゴミ（低レベル放射能）が毎日、出ている。日本が原発を始めてから 1969 年までは、どこの原発でも核のゴミはドラム缶に詰めて、近くの海に捨てていた。それが当たり前だった。私が茨城県の東海原発にいた時、業者はドラム缶をトラックで運び、船に乗せ、千葉の沖に捨てに行っていた。

私が原発はちょっとおかしいと思ったのは、海に捨てたドラム缶は 1 年も経つと腐ってしまうのに、中の放射性ゴミはどうなるのだろう、魚はどうなるのだろう、と思ったのがはじめ。

現在は原発のゴミは、青森の六ヶ所村へ持って行っている。全部で 300 万本のドラム缶をこれから 300 年間管理すると言っているが、一体、300 年ももつドラム缶があるのか。

もう一つの高レベル廃棄物、これは使用済み核燃料を再処理してプルトニウムを取り出した後に残った放射性廃棄物。日本はイギリスとフランスの会社に再処理を頼んでいる。去年（1995 年）フランスから、28 本の高レベル廃棄物として返ってきた。これはどろどろの高レベル廃棄物をガラスと一緒に固めて、金属容器に入れたもの。この容器の側に 2 分間いると死んでしまうほどの放射線を出すそうだが、これを一時的に青森県の六ヶ所村に置いて、30 年から 50 年間くらい冷やし続け、その後、どこか他の場所に持って行き、地中深く埋める予定だといっているが、予定地は全く決まっていない。余所の国でも、みんな困っている。

5 年程前、北海道で「放射能のゴミを 50 年、300 年監視続ける」と言ったら、中学生の女の子が、「お聞きしていいですか。今、廃棄物を 50 年、300 年監視すると言いましたが、今の大人がするんですか？そうじゃないでしょう。次の私たちの世代、また、その次の世代がするんじゃないんですか。だけど、私たちはいやだ」と叫ぶように言った。この子に返事の出来る大人はいるのか。原発が動いている限り、終わりのない永遠の 50 年、300 年なのだ。

▼住民の被曝と恐ろしい差別…日本の原発は今までは放射能を一切出していないと、何 10 年もウソをついてきた。しかし、原発の高い排気塔からは、24 時間放射能を出している。その周辺に住んでいる人たちは、一日中、放射能をあびて被曝しているのだ。

ある女性から手紙が来た。23 歳だ。便箋に涙の跡がにじんでいた。「東京で就職して恋愛し、結婚が決まって、結納も交わしました。ところが突然相手から婚約を解消されてしまったのです。相手の人は、君には何にも悪い所はない、自分も一緒になりたいと思っている。でも、親たちから、あなたが福井県の敦賀で 10 数年間育てている。原発の周辺では白血病の子どもが生まれる確率が高いという。白血病の孫の顔はふびんで見たくない。（以下、次号につづく）